

〔「水にまつわる美術」展に寄せて〕

水の象徴としての龍の造形について

水は水や水蒸気などに状態変化します。私たちは自然の中でのこれらの状態を雨や雪、霞や霧といったように様々な言葉を用いて表現し、さらに気象というだけではなく、その現象に何かしらの意味があると考えることや、心情を投影して風景を眺めることさえあります。人々は水と様々な関わってきましたが、古来、水は神聖で清浄なものとする考えがあります。またそのような水には神秘的な霊獣を生み出す力があると考えられました。

皇帝をあらわすシンボルとして、龍の造形は皇帝の衣裳や宮廷で用いられた器物などに見られます。これらは威風堂々と飛翔する姿が多く、皇帝の威信を表現するかのようです。その一方で、龍と水との深い関わりを背景にした作品も見られます。

龍と水との関係は、戦国～漢時代に成立されたと考えられている『管子』第三九篇「水地」にある「龍生於水」（龍は水から生まれる）の文言が知られています。本書の中には亀も水より生まれると記され、亀と龍はともに神聖な動物とされています。これらが霊獣として当時の世界観や神仙思想の中で世界を支える役割を果たしていたことは、霊亀が蓬萊山を背負って描写され、また東大寺大仏蓮弁の線刻図像で須弥山中にあらわされていることから伺えます（図1、部分、拓本、奈良時代）。須弥山

図では、山の下部に八つの龍頭で八大龍王があらわれ、それぞれが山に身を巻き付け、頭をもたげて四方にくまなく向けています。龍については、後漢時代の漢字字典である許慎『説文解字』第十一下「龍」の項には「春分而登天、秋分而潛淵」とあり、天に登ると考えられたほか、雨や河の氾濫などの原因とも考えられ、龍神への雨乞いが行われました。皇帝は天命を受けて天下を統治すると考えられたので、龍は天や皇帝と結びつけられて、特別な位置付けを得ていったといえます。

龍には様々な種類があり、その姿も鱗や翼、角の有無に拠って名前も蛟龍、応龍、虯龍、螭龍などがあります。「龍文佩玉」（図2、春秋～戦国時代、大和文華館蔵）は、やや青みを帯びた玉で、身をうねる龍を象っています。さらに、身体には巴形の文様が浮き彫りで充填されていますが、これらも各々が身体を丸めた姿が簡略化された龍文です。蟠龍はとぐろを巻く龍を指し、C字形に丸まった姿として描かれています。

大和文華館が所蔵する陶磁器の中で龍の造形の双壁ともいえるのが、「白磁蟠龍博山炉」（図3、中国・隋～唐時代）と「青磁九龍浄瓶」（図4、朝鮮・高麗時代※本展覧会では5月15日～5月31日まで展示）です。前者は香炉、後者は水瓶と用途は異なりますが、

どちらも複雑な龍の姿が強烈な印象を与えます。

博山炉とは山岳を象った香炉で、漢時代には金銅製や陶製の博山炉が盛んに製作されています（『美のたより』No.170「研究ノート 大和文華館所蔵白磁蟠龍博山炉」と類品をめぐって」2010年参照）。「白磁蟠龍博山炉」は香炉が蓮華で象られ、蓋にあたる山岳形の表面に火焔宝珠が貼り付けられています。蓮茎に双龍が巻き付き、蓮花（博山）を支える形になっています。博山は崑崙山など仙人などが住む仙岳が象られているとされ、「博山炉」では須弥山のイメージを取り込み、蓮や宝珠、龍といった仏教にも通じる造形を用いていると考えられます。図1や雲崗石窟第十窟入り口に浮彫彫刻であらわされた須弥山（図5、北魏時代）とつながる造形であることがわかります。さらに、龍の下にある承盤は、ここに湯を貯めて気を潤し、香を蒸すと記され（呂大臨『考古図』、北宋時代）、香炉としての機能を持ちますが、同時に龍が棲む大海をあらわし、香炉全体で博山を象る大きな造形です。

中国河北省趙県の安済橋は「博山炉」とほぼ同時代の隋の大業年間（605～617年）に李春によって建造された石製橋で、橋の浮彫彫刻にやはり龍が見られます（図6）。双龍がお互いに巻き付き、足を踏ん張る姿は「博山炉」と同様です。橋の守護として水難に対する龍の霊力を求め、またその姿には須弥山の蟠龍のイメージがあると考えられます。

「博山炉」と「浄瓶」は製作年代及び制作地も異なりますが、龍の姿を製作する技法もそれぞれ異なっています。「博山炉」では頭部や足などを型作りし、「浄瓶」は頭部を彫塑し、身体部分は浄瓶の頸部と胴部に線刻してあらわされています。龍の頭部と身体部分の技法を変えて凹凸の対比を出しながら、龍と水瓶を見事に一体化させています。

同じ龍の姿でありながら、「浄瓶」が龍の頭部を細密に生き生きと刻出して躍動的であるのに対し、「博山炉」は龍の全身の厳かな姿や巻き付く動きを重視した表現といえます。（瀧朝子）

※図5は雲崗石窟文物保管所編『中国石窟 雲崗石窟』二、文物出版社・平凡社1990年、図6は梁思成『中国建築史』百花文芸出版社、2005年5月より複写させていただきました。



図5 雲崗石窟第十窟「須弥山図」



図6 中国河北省趙県安済橋の浮彫彫刻



図1 東大寺大仏蓮弁線刻「須弥山図」



図2 龍文佩玉



図3 白磁蟠龍博山炉

全図



部分図

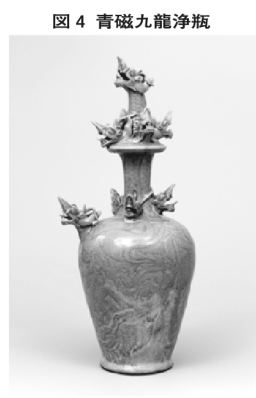


図4 青磁九龍浄瓶

全図



部分図

季刊 美のたより No.190

平成27年 4月3日

発行 大和文華館